

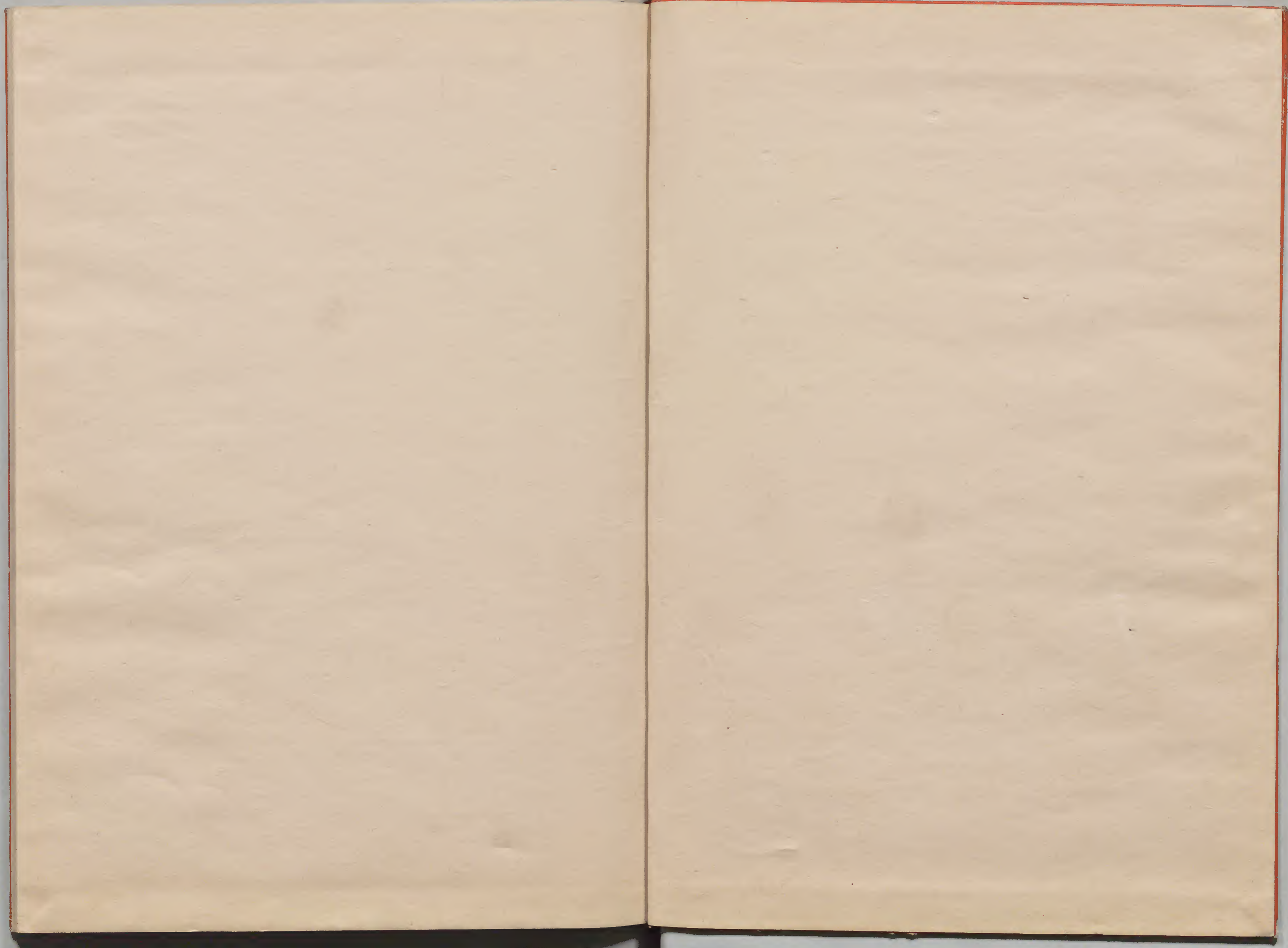
和書

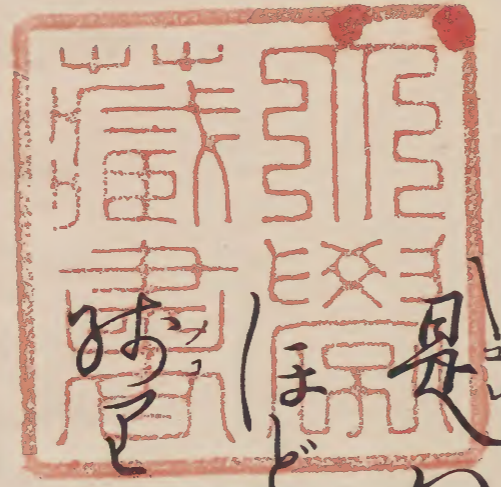
和書門類			
二	一	六	二
一	〇	六	七
二	〇	六	九
冊	架	函	號

內閣文庫			
九	二		和
九	四		書
函	二		
	一		
九	二		
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 24729
冊數	212 ( 21 )
函號	199 216

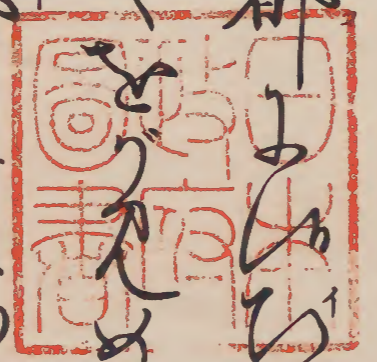






い  
き  
の

是の諸國一見の僧よそ人非は



都の洛陽の寺社

浅草文庫

よわ南都よましくあと思ひん

ありの社ありあはく

権行まの深草や本懐のそまを

とをすていせみらりてしるあ



水と暮ねきそ 宇治乃里下流  
水と暮ねきそ 宇治乃里下流  
水と暮ねきそ 宇治乃里下流  
水と暮ねきそ 宇治乃里下流  
水と暮ねきそ 宇治乃里下流

あつれ じ路乃里橋の景色は可  
あつれ じ路乃里橋の景色は可  
あつれ じ路乃里橋の景色は可  
あつれ じ路乃里橋の景色は可  
あつれ じ路乃里橋の景色は可

一見乃者そそ 宇治乃里とす  
一見乃者そそ 宇治乃里とす  
一見乃者そそ 宇治乃里とす  
一見乃者そそ 宇治乃里とす  
一見乃者そそ 宇治乃里とす

答へ申すは 京都府 八幡町  
 勸学院の 勸学院の 勸学院の  
 といふ所の 人々を せんませ  
 り心よき 人々を せんませ  
 せんませる 勸学院の 勸学院の  
 作らば 勸学院の 勸学院の  
 法書あれ 勸学院の 勸学院の  
 勸学院の 勸学院の 勸学院の

京都府 八幡町  
 勸学院の 勸学院の 勸学院の  
 といふ所の 人々を せんませ  
 り心よき 人々を せんませ  
 せんませる 勸学院の 勸学院の  
 作らば 勸学院の 勸学院の  
 法書あれ 勸学院の 勸学院の  
 勸学院の 勸学院の 勸学院の

名もなちをぬく小嶋ぐらう 向ひよ  
あしたる寺の横あんの僧お乃  
は去るとき一寺いふ 刻あく様  
人おまは覺せよ 柔あよもあす  
月うあれあさ日山かく山吹の  
頼はあやうま景らーくふん  
志し小舟山もほむおぼろくと

してきまことあぬきまうか  
やあやうおまらうまあきう路の  
はともまらうまあきう路の  
あか子作は前子平お院と申  
浄寺のぢち覺せざれていり 玉知  
幸向の事よしては種よ末忍ん  
浄教と 洲方へおは是より平お院

そと又足あるは釣殿とて面白く  
可<sup>トコロ</sup>あつてはやくは境<sup>ゴラン</sup>とくう<sup>ノキゲニ</sup>く  
ね中<sup>ナニ</sup>ろろ所<sup>トコロ</sup>よそと又足あるはきん  
ま<sup>アフギ</sup>れ<sup>アフギ</sup>扇<sup>アフギ</sup>ら<sup>アフギ</sup>て<sup>アフギ</sup>い<sup>アフギ</sup>ま  
付<sup>ナニ</sup>と<sup>ナニ</sup>了<sup>ナニ</sup>事<sup>コト</sup>よそ<sup>ナニ</sup>う<sup>ナニ</sup>ら<sup>ナニ</sup>む<sup>ナニ</sup>ら  
此<sup>コノ</sup>芝<sup>シビ</sup>子<sup>ツイ</sup>付<sup>ツイ</sup>て<sup>ツイ</sup>物<sup>モノ</sup>語<sup>ガタリ</sup>ら<sup>ガタリ</sup>ん<sup>ガタリ</sup>カ<sup>カタツ</sup>タ<sup>カタツ</sup>く<sup>カタツ</sup>ま<sup>カタツ</sup>り<sup>カタツ</sup>ま  
中<sup>ムカシ</sup>昔<sup>ムカシ</sup>治<sup>ヂ</sup>業<sup>セウ</sup>乃<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>ん<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>

頼<sup>ヨリ</sup>政<sup>エサ</sup>合<sup>カ</sup>戦<sup>セニ</sup>討<sup>ウチ</sup>ま<sup>ウチ</sup>き<sup>ウチ</sup>流<sup>タモ</sup>い<sup>イ</sup>此<sup>コノ</sup>所<sup>トコロ</sup>扇<sup>アフギ</sup>を  
志<sup>シ</sup>す<sup>シ</sup>自<sup>ガイ</sup>害<sup>ガイ</sup>一<sup>ハテ</sup>畢<sup>タマ</sup>ら<sup>イ</sup>ぬ<sup>イ</sup>ら<sup>イ</sup>ま<sup>イ</sup>は  
名<sup>メイ</sup>将<sup>シヤウ</sup>乃<sup>ノ</sup>古<sup>コ</sup>松<sup>セキ</sup>あ<sup>ア</sup>れ<sup>ア</sup>を<sup>ア</sup>そ<sup>ア</sup>て<sup>ア</sup>あ<sup>ア</sup>つ<sup>ア</sup>の  
あり<sup>ア</sup>よ<sup>ア</sup>ぬ<sup>ア</sup>お<sup>ア</sup>し<sup>ア</sup>て<sup>ア</sup>は<sup>ア</sup>ら<sup>ア</sup>ぬ<sup>ア</sup>扇<sup>アフギ</sup>乃<sup>ノ</sup>芝<sup>シビ</sup>と  
申<sup>マウシ</sup>作<sup>サシ</sup>伊<sup>イ</sup>三<sup>サン</sup>ツ<sup>ツ</sup>や<sup>ヤ</sup>ら<sup>ヤ</sup>も<sup>モ</sup>女<sup>メ</sup>義<sup>ギ</sup>子<sup>シ</sup>  
名<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>い<sup>ナ</sup>へ<sup>ナ</sup>ん<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>跡<sup>アト</sup>ハ<sup>ハ</sup>草<sup>サウ</sup>露<sup>ロ</sup>の  
道<sup>ミチ</sup>乃<sup>ノ</sup>道<sup>ミチ</sup>と<sup>ミチ</sup>あ<sup>ミチ</sup>つ<sup>ミチ</sup>て<sup>ミチ</sup>行<sup>イ</sup>く<sup>イ</sup>ま<sup>イ</sup>い<sup>イ</sup>む<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>ゆ<sup>イ</sup>

へろごころのあはれさるるや作

定よくは弟の相の致もかろ軍乃

回も日もきよよは夢さるるいよ

何とかろ軍乃月も日もけつよ

たもとらるるやか様よしをを

我あがりよよハあはれ様人の

茶乃枕の露乃世よすさるる

来りてはつとあはれ給ひ

やよ夢乃浮世の平宿の

字のりも年ををそ考乃

あももうちりるをかんまもの

申頼政の善名のもつて

りもよきわくそ頼政乃

買をよあつた妙子言をり





いぢやめと采りくときめる極みつ家  
頼まさる具出雲よてまきり  
らやれお菊すし植てもり  
あーぬのぬらさし頼政と  
後さるるきりし御  
経よん今くは易くおり  
五丁辰物りくさるるは  
舎

いぢやめと采りくときめる極みつ家  
頼まさる具出雲よてまきり  
らやれお菊すし植てもり  
あーぬのぬらさし頼政と  
後さるるきりし御  
経よん今くは易くおり  
五丁辰物りくさるるは  
舎

つゞきま是ハ派の頼まる執心の  
浪子浮世を固果乃が極ありつん  
なり 柞治菜の夏の比よりまさ  
伊謀殺をもめりももたりくの  
宮乃うらや井のようは在月乃  
月の都を悲びゆて 引きつる  
しも近江路や三井寺らして

わら給ふ いろは平家ハ時  
とゞぐらららど 校萬騎乃つもの  
開乃東よつりつとや音羽の  
山つゞき山科乃らとちるも本情  
乃開をもうまえて 浮世  
の様うらや 乃橋おわら  
清馬とやめおせし 寺と

宇治と河内を隔る所ありて  
いふもあはれ度まで清原馬  
よそぞろらりて給ひまわられ  
らるる所ありて清原ありて  
平太院よりて清原ありて  
河内と河内の中を隔る所あり  
あちあちの河内を隔る所あり

中ノル  
むも子白旗とありて  
敵を物居とありて  
兵衛治乃南の岸より打撃を  
とまらざるやらまじり  
はてはたし橋の白さ  
を渡り戦ひたり  
来はし  
オドロカ

ついで平家乃大坂橋ハいりて  
水ハたりにらとり難所乃大坂の家  
きバたかあるらひへきやうも  
あつちの風まだみ又大坂忠徳と  
名のつて字名乃先陣我ありと  
なれちもある百金騎 嚙を  
うろへい水よとこもたあらす

びきぬる村島乃翅をぬぬ  
羽音もつと白浪はらつくと  
うらつわなふ志はぬ度  
きちつ忠徳つばのせと下知して  
ついで水乃らり向く可をを  
あつと志あるらり馬をを下  
平乃立すつよまよふを防ぎよ

ふりしめし長者よハッヅをさせ  
だりちよちかつを合すべーとだ  
へんろぶおよよあつておらづちのち  
あれども一も流きびこあつあ  
きよおめつそあつれも味方の  
おれおろくもたぬ半田計  
おぼしす志らつておきらるる  
おぼしす志らつておきらるる

おろしめし長者よハッヅをさせ  
だりちよちかつを合すべーとだ  
へんろぶおよよあつておらづちのち  
あれども一も流きびこあつあ  
きよおめつそあつれも味方の  
おれおろくもたぬ半田計  
おぼしす志らつておきらるる  
おぼしす志らつておきらるる

是コトあるト甚シくハ入ルるト人ノ下ノ厨ノとハらハ後ト  
よクあリひトぬキまシてハ度ガをクみクみクカカナシカナ  
をトぬキまシてハ度ガをクみクみクカカナシカナ  
其ノ身ヲまシてハ堀ノ本ヲ花ノ心ノもト  
あリまシてハ度ガをクみクみクカカナシカナ  
うチあリまシてハ度ガをクみクみクカカナシカナ

たノ乃ハ縁ノよリ反ノ厨ノのハ茶ノヨスル  
乃ハ陰ノ子ノ跡ノをクみクみクカカナシカナ  
あリまシてハ度ガをクみクみクカカナシカナ

